

やまもり通信 vol.87

今年も残すところあとわずか。
1年で最も慌ただしく忙しい季節の到来ですね。



【加子母の風景】晩秋の朝。見上げた空がキラキラしていました。

4年ぶりに復活「2023岐阜ふるさと祭り」～10月21日(土)、22日(日)



コロナの影響で2020年から中止していた彩都やまもりの「岐阜ふるさと祭り」ですが、今年ようやく開催することができました。

岐阜県内10市町から約20ものブースが出展し、岐阜のグルメ屋台や特産品販売、ワークショップなど楽しんでいただきました。

ステージイベントも地元の小学生や高校生のダンスに中学生やママさんサークルの吹奏楽、バンド演奏など盛りだくさん。岐阜県各地から、みなも(岐阜県)さるぼぼ(高山市)げろぐるくん(下呂市)カッパの河太郎(揖斐川町)かしもん(中津川市加子母)といったゆるキャラたちも駆けつけてくれて、一緒に会場を盛り上げてくれました。

まずまずの天気にも恵まれた2日間は、開始時間前から訪れる人もあって、関西地域の多くの人たちがこの祭りの再開を待っていてくれたと実感。どのブースも大盛況で、グルメ屋台は早々に売り切れるところもありましたが、総勢4000人の方にお越しいただき、祭を楽しんでいただくことができました。



岐阜ふるさと祭りは、地域の人たちに愛される祭りとして来年以降もこの時期に開催する予定です。ぜひまた来年、皆さまのお越しをお待ちしております。

【12月・1月のイベント情報】

「ミニ門松作り」ワークショップ開催

毎年大人気の「ミニ門松づくり」。卓上サイズの手作り門松で新年を迎えてはいかがでしょうか？



【日時】12月17日(日)

①10時～②11時半～③13時半～

【場所】彩都やまもり敷地内

【定員】各回3組(1組おひとつ)

※要事前予約

【参加費】1500円

【申込方法】TEL: 072-739-6046

※12/6(水)9時～受付開始

「筆ペンアート体験教室」を開催

筆ペンや水筆を使って描く作品は、ほんわかとした温かみがあるものばかり。描いて楽しいと毎回好評の体験教室です。

【日時】令和6年1月18日(木)10時～12時

【場所】彩都やまもり モデルハウス「加子母子屋」

【定員】5名 【参加費】3000円(材料費込み、ドリンク付き)

【申込方法】TEL: 072-739-6046



【お問合せ】彩都やまもり(TEL: 072-739-6046)

※最新情報は随時、
彩都やまもりHP
(<https://yamamori.site>)や
facebookで確認ください。



やまもりHP



やまもりfacebook

彩都やまもり年末年始休業について

《ギャラリー&モデルハウス》

12月26日(火)～1月7日(日)

※1月8日(月祝)より通常営業

《カフェアリス》

12月28日(木)～1月9日(火)

※1月10日(水)より通常営業

娘と地歌舞伎研究

今年の加子母歌舞伎は10/29。
 今年のおケイコの時から見学に行つて
 本番も、3外題、特に「俊寛」も
 楽しみました。
 4人の歌舞伎熱は終つても
 10月29日まで、熱心になっていくばかり
 なので、今年は近隣の白雲座や
 常盤座の歌舞伎も見学。
 師匠が違つても、フニキもそれぞれ、
 芝居小屋もそれぞれ違つたのいいです。
 「待ちました!!」と声をかけ、おひなりを
 ながめる。いっしょの歌舞伎ファンです。



本間希代子 絵描きイラストレーター 名古屋生まれ。加子母に移住して26年目。古楽器奏者の夫と娘と日々バタバタと加子母ライブを楽しんでいます。第3回新美南吉絵本大賞受賞作「ひとつの火」で絵本デビュー。アトリエ玉手箱 <http://tebakko.jp>

関西発会活動けいじ板

大阪モノレール「飛騨高山観光列車」に乗車しました

おいしい地酒と飛騨牛弁当を楽しむ、をキャッチフレーズに開催された大阪モノレール「日本酒列車・飛騨高山」が9月10日(日)に開催されました。
 集合場所の万博記念公園駅構内では飛騨高山観光パンフレット、散策マップなどの配布のほか、飛騨の農産物、地酒の即売、飛騨牛串、鶏ちゃん煮などの実演販売、高山祭(豊明台)の模様が展示されるなど会場は豊かな観光・物産資源を誇る飛騨高山の魅力でいっぱい、さるぼぼ、ほっちゃん、ひだももちゃんのマスコットキャラに見送られていざ乗車。

門真市駅と大阪空港駅間を運行するモノレール観光列車の車内では飛騨高山の食材や郷土料理を詰め込んだ豪華なお弁当と7銘柄の地酒に舌鼓を打ちながら飛騨牛などがプレゼントされるじゃんけん大会などが行われて大いに盛り上がりました。

なお当日会場で田中明高山市長、清水雅博副市長と面談する機会を設けて頂いて、関西地区での県人会、連合会の活動状況について意見交換をすることが出来ました。



右から田中市長、徳田会長代行、清水副市長

連合会主催「ふるさと紀行」〜東濃地方を巡る旅〜に行きました

9月27日(水)〜28日(木)、一泊二日で恒例の「ふるさと紀行」を催行しました。

今回は発展と活性化を目指す「ふるさと岐阜」の現状を肌で感じることをテーマに東濃地区を旅しました。

初日は昨年未竣工した県庁舎を、兼松伸和商工労働部次長、山本政敏課長補佐の案内で見学しました。「県民の暮らしを守る」、「地域の魅力を発信する」、「環境負荷やライフサイクルコストを低減させる」をコンセプトに設計された庁舎は外観はシンプルですが最先端の充実した機能を備えています。20Fの「清流ロビー」は床・柱・壁などに県産のタイルや木和紙を使用していて、岐阜の山々や街並を全方位で展望できるロビーでその解放感が素晴らしい。また庁舎正面に位置し、一体的に整備された「ぎふ結のもり」は県民の皆さんと共に親しむ公園として末永く活用されることを期待して命名されたものです。

県庁を後に恵那市へ。ボランティアガイドの案内で、女城主の里、岩村城下町を散策。今晚の泊は恵那峡ランドホテル。懇親会の前に恵那市の藤田航商工観光部長が市の誇る豊かな観光物産資源等をPRされました。

翌日は恵那峡クルーズを楽しんだ後、2027年開業を目指すリニア中央新幹線「岐阜県駅」建設現場へ。隣接するJR中央本線美乃坂本駅では中津川市青山節児市長他リニア都市政策部幹部の皆さんのお出迎えを受けました。「ようこそ中津川へ」と青山市長の心温まる歓迎の言葉があり、担当者からはリ

加子母の人 山守日記 20 第78回 年末年始の食べもの

今年は暖かい秋だと思っていたら突然の積雪。暖かくなったり寒くなったりアップダウンの激しい年です。加子母はいつも山が2回白くなると里に雪が降るはずだったのになあ。そうこうしているとおつという間に年末ですね。さて、江戸時代の彦七さんたちも、冬になると、歳暮や正月準備に追われていたようです。今回も『御山方御用所持日記』を覗いてみましょう。

●お正月の準備は大変

明和5年(1768)12月26日の日記には、小郷に住んでいた菓守(すみり：鷹の巣を守る役目)の万助から歳末の祝儀として「山鳥」を一羽送られたと書いてあります。

また、この時期には正月の祝膳用の材料を買っていたようで、23日の日記には、鯖を百文で15本、鮪を730匁(もんめ)分海老を64文で2升分、昆布を200匁分購入したとあります。1匁は3.75グラムで5円玉1個当たりの重さなので、鮪を約2.7キロ、昆布を750グラムということですね。なかなかの量です!

●新年の挨拶も

新年を迎えると、彦七の家には年始の挨拶



挨拶である年礼のために「一家中」はもちろん、村の内外から多くの人々がやってきます。その人たちも年礼品として鏡餅や様々な食べ物を持参してきました。

安永4年(1775)正月9日の日記には、付知村から庄屋の忠左衛門と九郎右衛門、「堂ヶ脇(屋号)」の忠蔵らが年礼の挨拶に訪れ、忠左衛門からは大鯛1枚、九郎右衛門からは小紙2帖、忠蔵からは扇子2本を年玉として受け取ったとあります。新年を迎えるにあたって、普段は口にできなかったり手に入らない食べものを、近隣の家族から購入したり贈りあったりする習慣が、現代よりも残っていたんでしょうね。【文責本間】



参考文献：『四季折々の暮らしと文化―江戸時代の「かしも生活」』◎仲泉剛・吉場真仁著 徳川林政史研究所発行

ア岐阜県駅と美乃坂本駅周辺整備計画等を我々にもわかるように親切丁寧に説明頂きました。駅だけではなく留置や整備を持つ車両基地が出来ること大いにアビールしたい意向です。岐阜県の新しい玄関口となるリニア駅の開通が待ち遠しい。

皆さんに見送られて馬籠宿へ。ボランティアガイドの説明を受けながら街道周辺をゆっくりと散策して帰路へ。参加者の皆さんお疲れ様でした。



青山節児中津川市長(前列右から3人目)や市の職員の方々と記念撮影

岐阜ふるさと祭 懇親会「絆の夕べ」

4年ぶりの「岐阜ふるさと祭り」(10月21日〜22日)の開催に併せて「絆の夕べ」を初日、彩都やもりの会場内で開きました。

出店している自治体や業者の方々や関西の県



中島紀子関西県人連合会会長

人会員が郷土料理や地酒を楽しむながら交流、懇親を深める目的です。晴天ながらも夕方からはやや肌寒さを感じるなか、約45人が参加。中島紀子関西県人連合会会長の開会挨拶、来賓の兼松伸和岐阜県商工労働部次長が「今、関西地区で県産品の販売、PRに注力している、年明けの1月には色イベントを準備しているのでは非会場に来て欲しい」と挨拶、寺岡龍彦大阪県人会長の乾杯で懇親会がスタートしました。

宴半ばから高野文男神戸県人会会長、桂川工京都県人会会長、岩崎雅明大阪法人部会長の挨拶を交えながら参加いただいた自治体業者、会員の方々からもそれぞれ自己紹介を含めスピーチをいただきました。

閉会の挨拶は徳田昭恵会長代行で「今回の参加者の構成が県人会会員の理想かもしれない。自治体関係者、県産品、特産品等の業者、会員の家族・親族・友人、そして会社の同僚など幅広い方々に参加いただいている。この流れを大切にさらに輪を拡げられるよう取り組んでいきたい」と締めくくられました。

なお「絆の夕べ」開催に先立ち、臨時の大阪県人会、法人部会の役員会を開き、県人会の現状と課題について話し合いが行われました。

また翌日の22日(日)、都竹淳也飛騨市長が、岐阜ふるさと祭り、の視察と激励に会場に駆けつけて来られました。